

第4回 スポーツ健康系学科長協議会 報告書

報告者 ジュニアスポーツ教育学科
27年度学科長 齋藤 正俊

1. 日時：2016年3月10日（木）
2. 会場：日本大学理工学部 駿河台キャンパス
1号館 131教室

1. 入学者選抜の適切な実施及び選抜方法の工夫と改善

文部科学省高等教育局大学振興課大学
入試室 室長補佐 荒木 秀治氏

【概要】

1) 大学入学者選抜について

子どもたちの働き方、未来について

今後10～20年程度で約47%の仕事が自動化される可能性がある、というマイケル・A・オズボーン氏の言葉の紹介からはじまり、高大接続改革実行プランの説明があった。

①各大学の個別選抜の改革…アドミッションポリシーの明確化

②「高等学校基礎学力テスト」及び「大学入学者学力評価テスト」の実施について「高等学校基礎学力テスト」は平成31年度から、「大学入学者学力評価テスト」は平成32年度からの実施を目指し、専門家の知見を活用しつつ、一体的な検討を実施とのこと。新しい選抜入試にすることである。

③高等学校教育の改革

④大学教育の改革：大学教育の質的転換、学生の学習成果の把握・評価の推進、大学への編入学の推進

2) 大学入試センター試験について 省略

3) 大学入学者選抜に於ける注意事項

入試ミスについて事例を挙げて説明

繰り返し、点検を怠らないよう注意して欲しいとあった。

4) 高大接続に関する議論の状況について

- 大学に3つのポリシーを義務づける。
- 平成27年9月15日 高大接続システム改革会議「中間まとめ」がなされる。

①高等学校教育改革・生徒一人一人が義務教育を基盤として「学力の3要素」を身につけることを目指す。

②大学入学者選抜：各大学の入学者選抜をアドミッション・ポリシーに基づき「学力3要素」を多角的・総合的に評価する、高等学校教育における能動的学習の充実を後押しするとともに、入学後の大学教育に円滑につなげていく。

③大学教育改革：受け入れた学生一人一人の「学力の3要素」を確実に向上させ、地域社会、国際社会、産業界等広く社会に送り出す。

2. 大学に於けるスポーツ推薦入試に関する課題

鎌倉女子大学 高橋 宗良氏

【概要】

①スポーツ推薦入試は全国の大学3割程度導入している。

②大学スポーツの強化という意義に加え定員充足率の維持・向上までに及んでいる。

③スポーツ強豪校の9割がスポーツ推薦入試を実施している。

④スポーツの強化と定員充足のため、2極化していると考えられる。

⑤学修支援は、公認欠課への配慮、クラス編制、時間割編制などにとどまっている。

⑥留年や退学について7割程度の大学が把握していず、大学の十分な学修支援はなされていない。

⑦4年間にアスリート学生と一般学生が同程度の学力を獲得するよう有効な学修支援について検

討していく必要がある。

スポーツ推薦学生を受け入れている大学は一般学生とスポーツ推薦学生の間で学力格差があり問題となっているが、十分な対策がなされていない状況がある。

3. 「広報手段としての大学スポーツ新聞」

文教大学 小林 勝法 氏

【概要】

- ①例として明大スポーツ、1953年創刊をあげる。
- ②現在は40以上の大学で刊行されている。
- ③作成主体は学生、学生課、広報課である。

学生・教職員、父母、卒業生、受験生、地域住民等に費用は必要であるが配布している。広告収入もあり、新聞社とも協力してつくっているののでしっかりしたものができており、広報の手段としては有効な印象である。

4. スポーツ庁より

スポーツ庁 参事官 由良 英雄 氏
参事官 仙台 光仁 氏

【概要】

- ①学生とスポーツのビジネス化
- ②学生へのスポーツ教育の充実
- ③学生アスリートのデュアルキャリア支援
- ④大学の地域貢献

4項目についての話である。学生とスポーツのビジネス化はまだ難しい。大学では特色を出すために活動している。地域貢献の視点が遅れている感じがする。

5. スポーツ健康系学科一般入学試験の動向

株式会社進研アド教育情報センター
主任研究員 神田 裕子 氏

【概要】

①高校生の大学選択行動の変化・無目的化（何となく、友達がいくから、先生に言われて等）自分の意思がない。

②オープンキャンパスは2校までが6割である。

③スポーツ系への志願動向に変化は見られない。

④スポーツ系学科の募集人員の割合は一般入試31%、一般入試以外69%である。(99校対象)

学生の獲得には、何度も高校訪問を繰り返し大学の特徴を丁寧に説明する必要がある。併せて資格としては保健体育の中・高一種免許状を取得できることを外せず、就職に関してはスポーツ経営学科の教員は積極的に企業とのパイプづくりが必要ではないか、と指摘があった。

5. 学生の就職支援・キャリア支援で教員がやるべき事・あるべき姿

①個別相談を実施し、学生が自分で自分の未来を考えるための支援をする。

6. 総合討論

本学は今年度入試でかなり入学者が減少しているので、他大学ではどうなのか、1年次教育をどうしているのかを知りたかったのであるが、東京近辺大学は学生獲得に危機感がなく、話が進まず成果は得られなかった。